

これまでの検討会におけるご意見について

航空局 航空ネットワーク部

空港技術課

令和6年10月24日



これまでの検討会におけるご意見の整理

これまでの検討会におけるご意見

対応状況・方針

- 生産性の向上によってスループットはどの程度改善するか、一人あたりのスループットはどの程度になるか、作業のボトルネックはどこなのか、というようなことが整理できればと良いと考える。

- 現状の人が対応する処理速度とロボットに置き換えた場合に求められる処理速度および実現可能な技術の水準をヒアリングにより整理の上で、技術導入により達成可能と考えられる処理能力の値を目標に設定。
- 今後、スループットのシミュレーションによる検証についても検討する。

- 技術を単純に導入するだけではすぐに人員削減につながらない。導入するだけでなく、施設や作業方法、手荷物の預かり方等の機械だけではどうにもならない部分をどうするか。協業領域で、航空会社間を超えて考える必要がある。

- 技術導入時に想定される作業工程、施設改修への影響を含めて検討し、事業者との意見交換を行い、実現可能な対応策に近づける。

- 現場の従業員の声が聞かれぬまま、標準的な空港設計・施工がされている。施工会社・設計側と、ユーザー側・労働安全性の観点から、議論する必要があるのではないかと考える。

- 追跡技術、手荷物読取りの技術については発地、着地で連携することが強力というのは同意。これらの技術をどのように実装に向けて考えていけばよいか検討が必要。

- 自動化に必要なデータ連携のフローについて整理のうえで、実現に向けた対応についてご意見を伺う。

- 積付の技術については、海外の自動化事例にも好事例はあると思うので追加調査いただければと思う。

- 事例調査を行い、参考資料に整理。

- ロボットアームを使う場合、周辺に人が介在して良いのか安全性の確認が必要だろう。コンベアを基本にする場合も含め、予算・空間等の制約が課題になってくるだろう。

- 自動積付・取降を導入する際の人とロボットとの協働を見据え、それぞれの業務領域の住み分けを整理。
- 具体的な現場運用を検討する中で、詳細な検討が必要。